

2.11.1 事務所設備

事務所設備は、レンタル会社から調達することが一般的になっています。

(1) ハウス

建物の建設は、何も無い更地の状態から始まります。このため、建設所で働く人達が打ち合わせをしたり、図面を書いたり事務をとったり、休憩するのに事務所設備が不可欠です。敷地内にこのような建物を建てられるスペースがあれば通称「ハウス」といわれるものを建てます。また、建設中の資材で雨などで濡れると困るものを保管する倉庫としてもハウスが利用されます。なお、このようなスペースがない場合は近くの貸事務所を借りたりします。本節ではハウスを中心に説明しますが、基本的に貸事務所の場合も同様の考え方で対応できます。

1990年前後に建設現場で働く人の環境を改善しようという気運が高まり、今日では概観は建設現場の事務所であるが、中に入ると一般の事務所と変わらない環境がごく一般的になってきました。

(a) 大きさ

ハウスの大きさは、そこで働く人達のピーク時の人数を想定して選択します。例えば机と椅子のみで考えますと、1人でおよそ1.2×1.8mのスペースが必要となります。これに製図スペース、打ち合せスペース、コピー機、書棚、図面棚などの備品のスペースが加わってきます。

(b) 机、椅子、書棚、図面棚など備品

働く人の人数が想定されると、机、椅子、書棚、図面棚など備品の数量が決まってきます。

(c) 冷暖房設備

ハウスの大きさが決まると、その面積に対応した冷暖房設備を計画します。

(d) OA 機器、放送設備、通話設備等、監視設備

電話、図面や書類のコピー機器、ファクシミリは現場を運営していくのに不可欠です。これに今日では事務処理用、あるいはCADや技術計算用のコンピュータが導入されることが多くなっています。

朝の朝礼、緊急時の放送等のために放送設備が使われます。しかし、近隣に住宅等がある場合、このような放送設備は苦情の対象となりますので設置できるか否か、検討する必要があります。

建設現場内に一旦入ると連絡をとることが困難になります。従来は、放送設備で呼び出して近くに設置したインターホンを使うことが一般的でした。しかし、近年、PHSが普及してきたことから、建設現場内にアンテナを立てて直接、連絡をとることが可能となってきました。トラブルが発生した場合、それが他に波及しないように迅速な対応が不可欠です。建設に関係する人達がどのように連絡を取り合うか、計画時点で十分、練っておく必要があります。

(e) 照明設備・コンセント

冷暖房設備、OA機器の容量が決まると電気の容量が設定されます。ハウスは照明・コンセントが標準で取り付けられているものもありますが、注文仕様にできる場合もあり、機器からのケーブルが邪魔にならないようにコンセントの位置などを考慮します。

(2) トイレ

人間の営みの中で排泄は不可欠です。働く人達の人数を想定して仮設トイレの数を計画します。大規模現場になると小用のためにトイレの場所まで行くのが億劫なために、不心得を働くものもできます。これを防ぐために作業階にも設置することが行われます。

(3) 更衣室，シャワールーム

ロッカールームで通勤服から作業衣に着替え，ヘルメットを被ると，「さあ，仕事に向かおう」という気持ちにさせられます。また，ロッカールームは畳などを敷いて休憩スペースとして使用される場合もあります。

土工事などに従事する場合，どうしても「土埃高い(?)男」になります。帰宅時に汚れた姿で帰るのは自分も心地よいものありませんし，夏に電車で通勤する場合など，周りの人から避けられてしまうということにもなりかねません。

洗面所も含めて，建設所で働く人が心地よく働ける環境をつくることは，よい仕事に結びつきます。